

(様式第8号)

事業報告書（令和4年度）

事業名 岡山いいとこ！街のすこやか保健室 in おいでんせえカフェ

団体名 一般社団法人おいでんせえ岡山 担当者名 逢澤直子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

・日時：毎月第3日曜日 13時から16時まで開催

・場所：ハッシュタグ

・コロナ渦中での参加人数を15名に制限（毎回予約をとる）

・内容：

移住および下見に来られた方、岡山の地元の様々な分野の団体、個人、企業、子育てママパパとの交流、ひとり親の方に、健康セミナーや生産者の生產品の話など、各分野の専門家の話を聞く場所を築き、地域の取り組みを分かち合う、対話・交流を目的とする。

岡山の良さをいろんな角度からPRし、興味を持っていただく。

地域の特色を活かした生產品などを考えたり、交流がきっかけとして防災への認識を持っていただく。

地域の、また移住者の生產品を並べる。

6月19日

今月も、お子様が安心して完食。

障害を持たれているお客様から、自立とは「依存先の一点集中」から依存を断ち切らず「依存先を増やしていく」こと。と根本のお話を聞く



7月17日

晴れ晴れしたお天気の中、ベビー服のフリマもして、たくさんお持ち帰りいただきました♪

本日は、議員さんがわざわざ話を聞きに訪れてくださいました。

最近の悩み事は、条例や制度など、多岐にわたることも多いです。

(様式第8号)

盲目のお子様を抱えたお母さんの寄り添いお忙しい中、ありがとうございました。



9月18日

台風が近づく中ではありましたが、ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました
週末に、他の人は、子どもとどのように過ごしてるの？大きい音やこわい音に子どもが敏感なときは？爪かみが多いときは？発達検査を勧められたら、どのように考えたらいい？アレルギーに対して、生活の中でできることは？などなど。

普段、生活の中で気になることを、心にも身体にも美味しいランチやスイーツも楽しんでいただきながら。様々なご質問をいただき、盛りだくさんの内容となりました。

コロナ禍の中で、遊びも限られがちの中で、また、近くに頼れる人もあまりいないと、気になることもいろいろあるかと思えます。

子育て世代が集まるイベントのことを知れてよかった。鉄やその他の栄養も合わせて摂れるよう工夫したい。若いお母さんがいろいろ工夫されていて、見習おうと感じました。など、嬉しいご感想もたくさんいただいています。



10月16日

今日もかわいい子供たちとあえて幸せでした❤️

本日の講和は、脳のクリアニングについて。

講和だけでなく、親子で「触れる」の体験もしていただきながら。全員で緩むの感覚。

本日もカラダとココロに優しいランチと米粉スイーツで、

入り口で行っているフリマも大人気でした。

(様式第 8 号)



11 月 20 日

ゲストは、子供食堂や被災地の災害支援の炊き出しを行なっている子供たちにも人気のゴリラの茅野さん。

いろんな災害と隣合わせな今！必要なことや、必要な支援は、二次災害を避けること。

参加されたご家族のお子様たちは、人生ではじめて飲むセロリの入ったジュースに微妙な反応。見た目も鮮やかで楽しい、色とりどりのブッダボウル・雑穀米とお豆のフライ添え・根菜ポタージュ・米粉のミニ・スコーンは美味しい〜〜と、お子様もすべて完食。



12 月 18 日

寒い中参加の子供たちは、(お子達計 10 名)関係なく元気。この日は明治製菓さんよりご寄付いただいたお菓子を配布。

高校生ボランティアの 3 名が缶詰をかわいくラッピングしたものを参加者の方へ配ってくれました。レシピまで自分たちで考えて。

小児科医の先生のお話をお伺いしながら。心のこもったオーガニックランチに、子供たちのパワーと笑いと静寂の空間。

(様式第 8 号)



1 月 15 日

この日も明治製菓さんよりご寄付いただいたお菓子を配布。

全粒粉バンズのバーガーとフライドポテトはみんな大好きです。

小児科医の話をききながら、お母さんとお子様、お父さんお母さんお子様のご家族連れ。

今日も子供たちは塚目もなく、お友達になりました。



2 月 19 日

9 ヶ月から 9 歳までのお子さま、10 名で大賑わいとなりました。

参加してくれて小学生 3 年生の女子が、写真を撮ってくれました。何も言わずともモリ加工してくれてありがたいです。

参加してくれた小学生男子が黒板に描いたアートがなんと学校でも好評。

ランチメニューは、○いのしし肉の赤ワイン煮 ○キウイドレッシングの温野菜サラダ
○大根、かぶ、玄米クリームのパタージュ 地元の猟師さんの手で丁寧に下処理された、
大自然の恵み [いのしし肉]を、野菜と一緒に有機赤ワインで煮込で。 2 月の米粉スイーツは苺ロールケーキ。



2. ESDの視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

- ・コロナ渦中という背景が思いのほか深刻で、生活・健康への不安が多く、特に新生児を連れてお母さんの参加が多く、不安相談場所としての街のすこやか保健室と定着。
 - ・移住されている方、下見に来られた方をきっかけとし、子育て世代の多い北長瀬学区、大元学区、その周辺の地元住民との連携ができてきたことから、学校以外のコミュニティ作りと住み続けられる地域をつくっていく。
 - ・移住者の生産者が岡山を選ぶ理由は、子どもたちのために持続可能な生き方を、地球を考え、自然豊かな岡山の地産地消、生産者の顔がわかる安心な野菜やお米を選択し移住を選んだ方が多いことにより、顔の見える生産者の紹介や販売、食の提供により、消費の場を作ることができた。
 - ・自分の居場所を見つけ、地域貢献の場所として視点を変えることができたりなど、見方の変化が見られた。
 - ・生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康の維持となり、地元をはじめとして、多くの方に知っていただく。
 - ・農業生産者が自信を回復し、事業としてより取り組むことができる。
- また同じ目的で移住される方の励みにもなる。
- ・心の内をさらけ出せる場所の確保で安全安心を感じていただき、一步前へとすすめられる場所づくりとなる。新たな職種についたりなど、

② どのように学び合いを取り入れたか

- ・実際に生産者、生産品を紹介することで農を体験していただく。
- ・地域防災コミュニティへの意識を確立していく。
- ・対話を続けていく。
- ・お子様の問題とお母さんの問題のすり合わせ。

③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

- ・顔の見える生産者の紹介や販売、食の提供により、消費の場を引き続きつくっていく。
- ・生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康の維持となる。
- ・地域の特色を活かした生産を考え、交流を持つことで、地域の一員の自覚に目覚め、おのずと防災への認識を持っていただく。
- ・地域の一員としての役割に気づくことで、孤立化及び転出者を防ぎ、住み続けられるまちづくりとなり、子供たち次世代へとつながるきっかけの場所となる。
- ・食育、農業、仕事、健康、教育などの専門分野でのスタッフを招き、話をしてもらうことで、学ぶ機会となる。
- ・対話を続けながら、安心感を与えられる場所の確保で孤立感を防ぎ一歩前へと生きる力となる。
- ・生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康への維持を促進するきっかけとなる。
- ・対話を続けながら（住みたい場所、家のニーズを聞き取り）、仕事などを紹介、病院を紹介、地域の方をご紹介、場合によっては議員さんにも参加していただきながら、安心感を与えられる場所づくりとなる。
- ・農業生産者の自信を回復し、事業としてより取り組めるきっかけとなり、また同じ目的で移住される方、または転職される方の励みになる。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

- ・食への意識、消費者意識が目覚めた。
- ・移住および下見の方には、地域の取り組みを理解していただけた。
- ・実際に生産者、生產品を紹介することで交流もうまれ、意欲的になった。
- ・対話を続けながら、ニーズを聞き取り、安心感を与えられる場所の確保で孤立感を防ぎ一歩前へと生きる力となった。特にコロナ渦中なので。
- ・参加者さんの心のうちをさらけ出せる場所の確保で安全安心を感じていただき、一歩前へとすすめられた。
- ・持続可能な社会づくりとして自分の居場所を見つけ、地域貢献の場所として視点を変えたり、見方の変化を見られることが良かった。
- ・生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康の維持となり、地元をはじめとして、多くの方に知っていただき、生産者の自信を回復し、事業としてより取り組み生産者の励みにもなった。
- ・食育、農業、仕事、健康、教育、法律などの専門分野での講師に話をしてもらうことで、学ぶ機会となった。
- ・顔の見える生産者の紹介や販売、食の提供により、安心安全な場が作れた。

(様式第 8 号)

- ・地域の中の一員としての気づきや、地域に貢献していきたいこと、発信したいことなど、地元の一員としての役割に気づくことで、孤立化及び転出者を防ぎ、住み続けられるまちづくりとなり、子供たち次世代へとつながる可能性が見えた。
- ・生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康の維持となり、地元をはじめとして、多くの方に知っていただくことができた。
- ・移住者の多いことをきっかけに、地域の特色を活かした生産を考え、交流を持つことで、地域の一員の自覚に目覚め、おのずと防災への認識を持っていただくきっかけ、一助となった。
- ・農業生産者の自信を回復し、事業としてより取り組めるきっかけとなり、また同じ目的で移住される方、または転職される方の励みになった。
- ・必要なことに、必要な方をご紹介することで、安心感を得ていただけた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

ランチ北長瀬に場所を移して 2 年目。街のすこやか保健室として 4 年目。おいでんせえカフェとしては 9 年目となりますが、ありがたいことに最近定着してきましたので、今までの相談などをまとめた冊子を作成して、同じ悩みを持つお母さんの応援になればと思います。

引き続きリアルに現場の声をひらっていきたいと思います。